

慶應義塾大学 日吉国際学生寮

Keio University Hiyoshi International Dormitory

No. 18-015-2017作成
新築
学校（寄宿舎）

発注者	西松建設株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	西松建設株式会社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	西松建設株式会社関東建築支社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

さまざまな「コミュニケーション」を創出し、グローバルなトッパーを育む国際学生寮

慶應義塾大学日吉国際学生寮は、国際競争力の向上及びグローバル人材の育成を図るため文部科学省が創設した「スーパーグローバル大学創生支援事業」の「トッパー」に採択された同大学が混住型の国際学生寮としての機能と国際交流の場としての機能を併せ持つ、グローバルなトッパーを育む学生寮である。本寮は、留学生2人、日本人学生2人の計4室の個室とリビング、WC、ユニットシャワーからなるユニット型の寮室50ユニット（200人）で構成される。



ユニット内リビング



ユニット内個室



中庭と一体利用可能な集会所



外観

留学生を「上品さ」「和み」「ぬくもり」で迎え入れる空間

内装には、ぬくもりのあるアースカラーをベースに、国際寮として海外留学生にとって「和」が感じられる材料や「日本の伝統色」をアクセントカラーとして用い、「上品さ」「和み」「ぬくもり」が感じられる空間とした。



共用キッチン



共用ダイニング



大浴場



外観

神奈川県産材の利用

神奈川県に立地する環境を考慮し、地産地消となりまた持続可能な森林から産出された木材の使用を目指し、「かながわ県産木材認証」を受けた県産材で無垢の木材の風合い、香り、肌触りが感じられるスギ、ヒノキを内装の壁に採用した。



エントランスホール（スギ材利用）

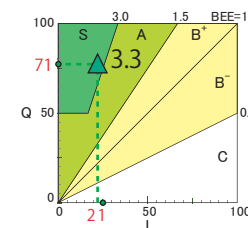


ラウンジ（ヒノキ材利用）



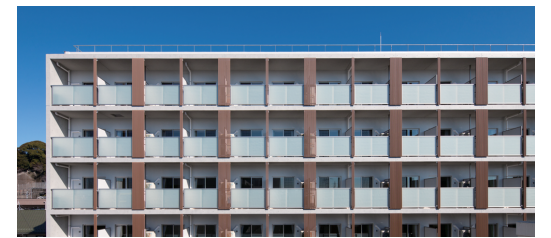
中庭

建物データ	所在地 神奈川県横浜市	省エネルギー性能	PAL削減 40 %	CASBEE評価	Sランク
竣工年	2017年	ERR (CASBEE準拠)	75 %	BEE=3.3	BEE=3.3
敷地面積	2,815㎡	LCCO ₂ 削減	83 %	2014年度版	第三者認証
延床面積	5,817㎡				
構造	RC造				
階数	地上6階				



再生木ルーバーの採用

各寮室のパルコニーには、リサイクル木粉を原料とした建材である再生木ルーバーを採用し、環境配慮型の建材利用を行った。また、西からの日射を低減するためルーバーを縦ルーバーとした。



再生木ルーバーの利用

太陽光発電

6F屋上に太陽光発電パネル及び蓄電池を設置した。日常は建物に電力を供給し、消費エネルギーの低減を図り、BCP対策として停電時には集会室照明等の電力供給を行う計画とした。



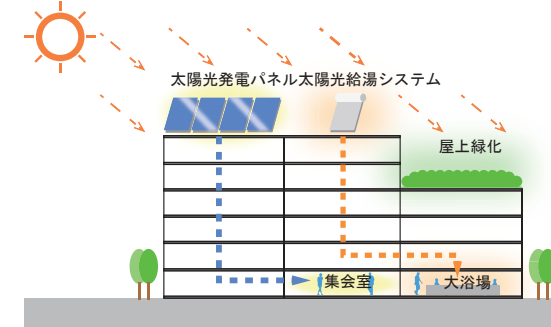
太陽光発電パネル



太陽光給湯システム

太陽熱給湯

6F屋上に太陽光給湯システムを設置し、大浴場の浴槽へ温水を供給し、消費エネルギーの低減を図る計画とした。

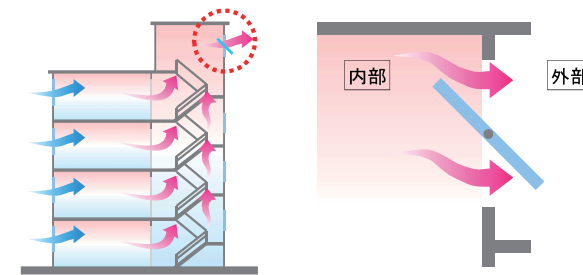


地下ピットの空気利用〜クール&ヒートチューブ〜

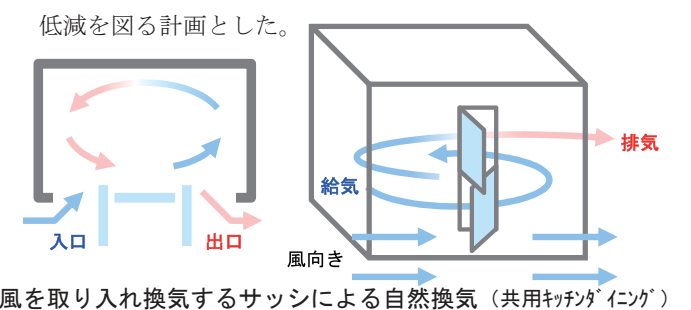
共同溝の地下ピットの年間を通して安定した温度の空気を「クール&ヒートチューブ」に利用することで、夏期には冷房負荷を低減、冬期には暖房負荷の低減を図る計画とした。

自然換気を促すサッシの採用

屋内階段最上階に、風の強さに合わせて障子が自然に可動し、煙突効果による自然換気を行い、屋上の風雨センサーにより強風時や雨天時は閉鎖するシステムと連動した横軸回転窓を採用した。



自動開閉システムのサッシによる自然換気（屋内階段）



風を取り入れ換気するサッシによる自然換気（共用キッチン）

生物多様性保全や回復に資する取り組みの評価「JHEP認証」AA+ランクを取得

生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量的に評価、認証する制度「JHEP認証」において、「AA+」ランクを取得した。地域本来の自然を手本とし、地域本来の植物の遺伝子を守る効果が期待される、関東地域に自生する植物の種子から育った「地域性種苗」を採用し、日本固有の在来植物を植栽した。季節の移ろいを身近に感じられるヤマザクラ、イロハモミジ、コナラなどを主体とした緑化を行った。また、ヒートアイランドの抑制及び、日射による建物への環境負荷低減の為、屋上緑化を行い、同じく在来植物であるススキ・チガヤなどを植栽した。



日本固有の在来種による植栽



ススキ・チガヤなどの屋上緑化

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（自生種の植栽による小動物を含めた生物多様性環境の実現）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（クール&ヒートチューブ、太陽光発電、太陽熱給湯、LED照明、ライトウェル）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（エコマーク認定仕上材、神奈川県産材の利用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（地上部緑化、屋上緑化）